

◆ 第14回 乳牛の大事な仕事が始まる前に

今回から2回程、乳房炎を考えてみましょう。

乳房の炎症を総称して乳房炎と言いますが、診断・治療・予防のためには酪農業の総合的な知識・経験・技術が必要です。また獣医師・指導員・普及員の方々を含め、多くの分野の協力が求められます。

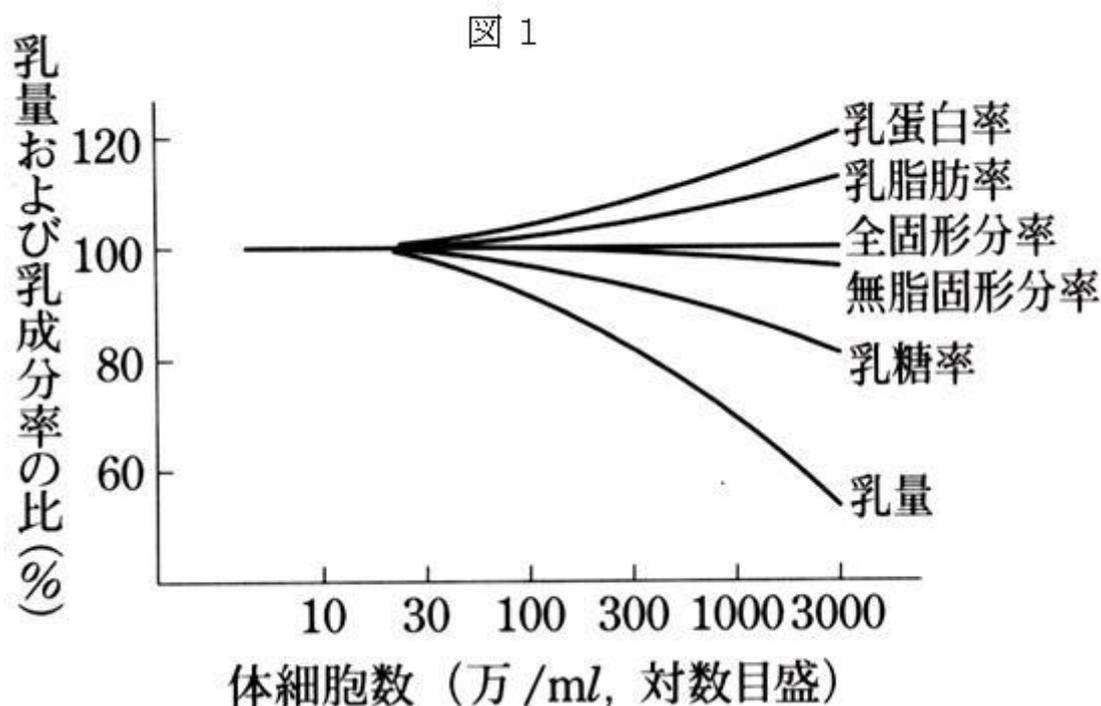
農業共済組合の獣医師が診療した乳牛の病気の百分率では、卵巣・子宮・乳房疾患・お産前後の疾患を合計すると全体の65%程になります。

乳牛の繁殖分野の病気、元栓はどこにあるのでしょうか？

一方、乳房炎の被害は年間300～350億円で、一戸の酪農家当たり200～250万円と言われております(北海道農業共済組合連合会のまとめ。県内の農林水産の総生産額が約2587億円で、乳用牛が9.6%(248億円)を占めておりますから、いかに大きな金額であるか想像いただけると思います)。

この被害の多くは、牛乳中に増加する体細胞と、乳汁を作る細胞が機能しなくなったことにより乳量や乳糖量が減少し、収入が少なくなるためです。

牛乳中の脂肪やタンパク質は細胞が増えるので、率としては増加したように見えますが生産される量では低下します。



牛乳中の体細胞数と乳成分率・乳量の関係 (根釧農試、1986)

獣医師の安里(1999)先生は、①バルクの体細胞数が20万/1^{リットル}を超える事がある、②繋養牛の20%以上が体細胞数20万/1^{リットル}を超える、③1年間に繋養牛の20%以上で臨床型乳房炎の治療が必要などの項目に該当する時は、酪農家の仕事として、乳房炎について専門家の指導を受けて下さいと述べております。

乳牛は、リスクの入ったかばんの運び屋でしょうか？